

西宮市人口ビジョン・総合戦略策定に係る有識者会議（第2回） 議事録概要

日 時：平成27年9月1日（火）15：00～17：00

場 所：市役所本庁舎 441会議室

1. 人口ビジョン（概要版）のご紹介

2. 第1回会議ご意見の整理

- ・ 地域活動への参加意向に関して
- ・ 第1回会議ご意見の整理

3. 本市への転入促進について

- ・ 人口減少傾向の表れている地域
- ・ 古くからの上質な住宅地エリア
- ・ 情報発信のありかた

4. その他

5. 閉 会

1. 人口ビジョン概要版及びアンケート結果の紹介

（進行役）

今回、市から示された人口ビジョン概要版では2060年には40万人(高齢化率31%)～46万人(高齢化率34%)の推計値が出ている。今後、人口変化に大きな影響を与える20歳代、30歳代がどのように西宮を評価し、また出産や子育てをしていくのかという視点でアンケートを実施した。そのアンケート結果を見て意見をもらいたい。

（委 員）

便利という評価が多い。

（委 員）

転出者に聞いたアンケートでは、鳴尾地区・南部のその他の地区では回答者の90%がいいイメージを持っている。こんなに満点に近い調査はなかなかない。むしろ、いいイメージがあるのに、人口が減っているのであれば、構造的に何が問題なのかを考えるのがよいのではないか。

（進行役）

西宮は東西方向の鉄道が整備されており、利便性が高く評価されているのは妥当。アンケート結果は想定内。婚活支援については、どう評価すべきかわからないが、若い世代、子供達が他から来てくれるあるいはここで育っていくために何をすべきかを考えないといけない。

（委 員）

結婚のイメージでは「子供が持てる」が一番だが、結婚を決めたきっかけでは子供のことが出てこない。子育てが大変、というのが、結婚しない理由になっているのではないか。

2. 第1回会議ご意見の整理 ～ 3. 本市への転入促進について

(進行役)

第1回会議で挙がっていた、地域コミュニティの参加意識について議論をお願いしたい。

(委員)

「どのような活動があるかわからない」等の人を、地域コミュニティへ引き込んで担い手を増やしていくことが必要。

(進行役)

旧集落の伝統的な地域コミュニティがあると、新しく入ってきた人は溶け込みづらい状況がある。コミュニティ活動で新住民が参加して連携すれば、大きな力になるが、そうっていない場合も多い。高度経済成長期に大量の人口流入が生じた、郊外住宅地では、専業主婦の存在が大きかった。新しい住民たちも伝統行事などに触れることにより、まちづくりに関わっていく環境づくりが出来るではないか。

(委員)

治安の良さは重要。人の目で見つめあう、守りあう、コミュニティができれば住みたいまちの要素になる。防犯カメラは、助けてはくれない。「割れ窓理論」がある。明るくきれいに掃除しているところでは、悪いことはしにくい。

(委員)

前回の会議で出た「子育て環境を磨く」という言葉がとても良かった。北部では、ゴミも少なく、掃除している人も多かった。地域に愛着がある。

アンケートでは、婚活について余計なお世話という反応ではなく、肯定的であるが、子供の数が増えないのは経済的な理由もあるかもしれないが、「不安」が原因ではないか。不安は、地域のコミュニケーションづくりで対応していけるのでは。

北部では、子育てしづらい環境があるのであれば、塾や児童館などがあればよいのではないか。

鳴尾は新陳代謝が良くないのではないか。リノベーションへの支援をするなどが考えられるのでは。子育て世帯にはプラスアルファの支援を行うとか、事務所使用も認めるとか、「あそこはいいよね」という評判が必要。

東京大阪とは違うライフスタイルが出来ることを、対外的にアピールしていくとよい。これからの自治体はアピールする発信力、マーケティング力が必要。

ネットの利用により、コストをかけずにPRできるはず。

西宮で結婚したらこんないいことがあるというモデルやイメージ戦略を提唱すべき。ライフスタイルで地域を選ぶ時代になってくる。

(委員)

地域コミュニティが活発さは住む場所を選ぶときの条件にはならないだろう。転入促進イベントと定住のためのイベントはわけて考えるべき。定住イベントは、20代・30代に何が必要かを訊いてみないとわからないと感じている。

(委員)

大きな家に住まれている方は子供が独立して、夫婦どちらかがいなくなり単身になると、住み続けたい意向はあるが、利便性を考えて移ってしまう。家を置いたまま出て行くと、次の世代に引き継げる状況にならない。

(進行役)

山手の方から駅前を下りてくるのは、全国的に一般的な状況。山手の良好な住宅地とそれ以外のエリアで人がそれぞれ移り住む仕組みを考えなければならない。

(委員)

鳴尾について、団地の一定の戸数は、若者向き・学生向きに安くしてはどうか。

(進行役)

上質な住宅地のイメージを鳴尾や北部にも広げるのか、鳴尾は若い人が安く住めるまちといった違う路線を考えるのか。良質な住宅地についても、用途混在を認めたり、最低敷地制限を下げたりしなければ、人は入ってこない。

(委員)

いくつかの家をまとめて、高齢者住宅に建替えたらどうか。敷地を分割して処分するのではなく、まとめていく。

(委員)

若者は、やはり利便性を求める。

(委員)

今の若手の半分くらいは車を持っていない。彼らは駅前にしか住まず、車自体にも興味がない。価値観が異なってきている。

(委員)

塩瀬地区について、南部の人が気軽に週末に通える、賃貸できる、などの仕組みはどうか。

農業で、地産地消マーケットをやるのもよい。

持ち家信仰も減ってきているので、ライフステージに応じて動きやすい仕組みで、定住でなくてもよいのでは。

(進行役)

西宮市は郊外住宅地のモデルを提供してきた。新たなモデルを提唱すべき。いろいろなタイプの賃貸住居が選べる、というスタイルを提案するのもありではないか。

(委員)

居住地や観光地などエリアに分けて用途を考える必要がある。

(委員)

観光では、何も無いことが価値になってくるかもしれない。

(進行役)

北部のライフスタイルのイメージは住んでいない人はよく分からないのだろう。いろいろあるというより、とっておきの暮らしがあるなど、イメージを絞るほうがよいかも。鳴尾は団地のイメージが強い。海に近い暮らしがあるなど「住み方のバリエーションを広げる」ことが考えられる。

(委員)

上質な住宅エリアで、住民ルールを作れないのか？ 地域DNAに共感してくれる層を探していくべきでは。

(進行役)

若い人に人気があるほど「普通のまち」になってしまう。西宮が変えてはいけない風景や空間を価値として捉える必要がある。住み始めてみて文化・環境の良さに気付く。

(委員)

普通のまちだから、人が入ってくるのだろう。芦屋は年配のまち、西宮は若者のまち、というイメージ。昔の西宮であれば、こんなに人は流入してこなかったのでは。

北部の人口について、どこまで増やしたいのか、維持したいのか。減った分は、南部で増やせばよいという考え方もあるが。

(委員)

定住してくれるのは、どのエリアなのか？

(進行役)
定住エリアと、常に人は入れ替わっているが人口が維持されるエリア、の両方がある。

(委員)
フランス人の旅行は、7割が国内旅行らしい。地区ごとの名店を紹介したのがミシユラン。

(進行役)
アーバンビレッジという概念がある。もともと村だった周りが市街化したときに埋もれてしまう個性的な塊ができる。それを発掘していき拠点とすることもできるし、住んでいる人が確認できるかもしれない。

(進行役)
素案づくりで忘れないでほしい視点などがあれば？

(委員)
西宮の歴史教育をしっかりしてほしい。歴史を知ることでもまた違ってくることもあるだろう。

(委員)
学生に、地域づくり研究（団地問題など）に関与してもらったらどうか。

大学のスポーツ施設を、市民開放するなどしてもらってはどうか。

(委員)
地域のストーリーが大事。

(進行役)
過去のストックや変化をどう伝えていくか。今住んでいる人が、まちを知ることによって愛着を高めてもらう。

以 上